

令和3年度実施分 甲塚古墳出土遺物の保存修理

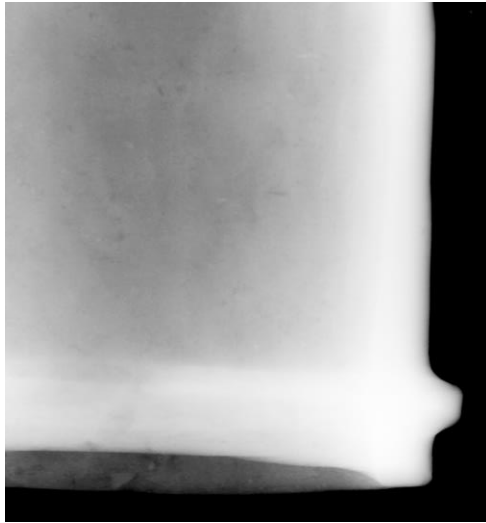
平成30年度から国庫補助事業として実施している甲塚古墳出土遺物の保存修理事業の令和3年実施分が完了しました。令和3年度は人物埴輪3体（人4・6・17）の保存修理を実施していますが、人6の人物埴輪の修理について詳しくご紹介します。



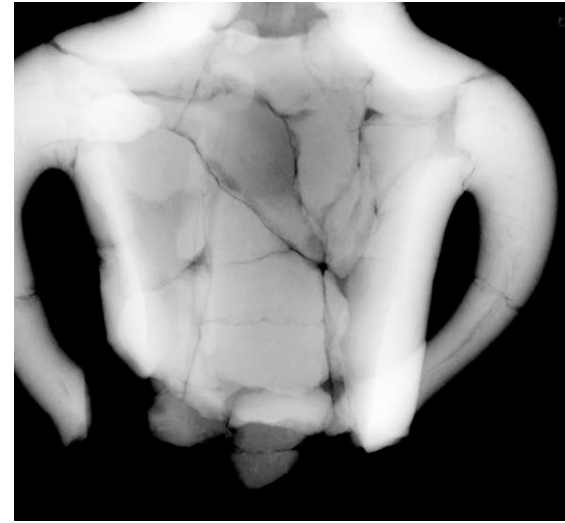
人6の修理前の状態

基部以外はばらばらの状態で出土していますので、接合し、足りない箇所を補修した状態です。白っぽい部分が補修した場所です。頭の一部の破片が見つっていますが、顔の部分は発掘調査では見つかりませんでした。

まず初めに、埴輪の状態を確認するためにX線写真を撮影し、目には見えないヒビ等がないかを確認します。



←基部の写真
ヒビもなくきれいな状態です



上半身の写真→
黒い線状の箇所が接合部分



すべての破片を外してクリーニングを行います。
補修材もすべて取り外します。

解体するとこれだけ多くの破片となります。



再接合した状態（正面）



再接合した状態（背面）



色の薄い
部分が樹脂

樹脂で復元を行った状態（正面）
後に修理が必要となった場合に取り外すことができる
樹脂を使っています。
左下は接合しませんが頭頂部の破片です。



完了（正面）



完了（背面）



彩色を行って完成です。

解体し再接合を行う段階で左腕の位置の再検討を行った結果、手の位置が変わっています。修理を行う際には文化庁の調査官、市の担当者と修理担当で細かい点まで検討を行い修理を実施しています。